

令和8年度事務事業評価【外部評価】意見

	事務事業名		意義	内容・手法	効果・課題	その他	判 定	特記事項
Aグループ	地域医療対策推進事業	医療確保対策	医師確保対策は重要であるが、医師の数が十分でないのであれば拡大すべき。	・医師確保対策は重要であるが、「貸与」という手法は最善か。	・朝来市として必要な地域医療・医師像に沿った内容となっているか見直しが必要である。	・都会で活躍されている朝来市出身の医師を呼び戻す取組も必要。 ・「医師確保対策」と「電話相談窓口」は、同じ事業の一環という枠組みでいいのか疑問がある。	改善	一次評価とおり、「あさご健康医療電話相談ダイヤル24」と「救急安心センターひょうご（＃7119）」の役割分担を明確にしたうえで両者を継続するのであれば、現状、役割の違いは周知不足と見受けられるため、周知方法については改善すべきである。
		電話相談窓口	・「あさご健康医療電話相談ダイヤル24」は、「救急安心センターひょうご（＃7119）」では対応していない、心身両方の健康に関する相談を可能としているところに意義がある。	・AIチャットボットも活用できるのではないか。	・「あさご健康医療電話相談ダイヤル24」は健康全般に対するお悩み相談の役割がある一方で、「救急安心センターひょうご（＃7119）」では救急性の高いものを対応するといった両者の違いについて、市民への周知が不足している。周知方法について課題があるのではないか。	・他市では子育て世帯の市民運動として健康ダイヤルの周知に取組んでいる事例がある。 ・「あさご健康医療電話相談ダイヤル24」に「救急安心センターひょうご（＃7119）」の機能があればよい。県と調整・連携してほしい。		
Bグループ	ケーブルテレビ運営事業		通信インフラとしては必要。	・視聴者を増やすためには、Youtubeなどのインターネットを活用すべき ・NHKでは他市町の放送をしている事例がある。 ・民間放送局との連携によって、見ていただく機会を増せないか（番組を制作して、販売することもあり）	・番組に魅力がない（見たいものがない） ・事業全体をみると赤字 ・職員の高齢化、技術の伝承が課題 ・大阪、豊岡ではケーブルテレビのサービスがない。 ・市外の人が見られない ・見たいときに見られない ・効果を図るために視聴率を取ろうとすると新たな費用が発生する。	・テレビ離れがある。 ・民間事業者の電波網が十分整備されつつある中で、事業全体のあり方についても今後検討が必要。	改善	インターネットでの配信、民間事業者との連携など、若者を含む多様な市民が見やすいよう、新たな放送方法を検討すべきである。 また、職員の高齢化の対応や、魅力的な放送内容とするためには、民間委託についても、先進事例を踏まえて検討すべきである。